

特定非営利活動法人
ジャパンアフリカトラスト
Japan Africa Trust Inc.

第2期 事業報告書

2012年4月1日 ～ 2013年3月31日

1、2012年度の総括

ジャパンアフリカトラスト(以下、JAT)は、今期で2期目となり、イベント出展や事業の開始により、ボランティアスタッフも増えてきました。国際協力に関する活動として東アフリカ(特にケニア)に対して、農業技術支援事業、国際理解教育事業、チャリティーイベント事業の3つを柱として事業を行っています。また、本年度は特定非営利活動法人化も行い、事務局の体制が整いつつあります。

本団体が活動する国際協力に関する事業は、事業の企画や内容を決定するにあたり、常に国際協力活動の現場のニーズや実態を踏まえ、実践に結びつくものとし、研究調査活動を充実させ解決策の提言などに努力していきます。

事業に草の根や現場の活動団体が活動しやすくし、またそうした団体の発展に役立つような企画や運営、資源の提供を心がけます。そのため、その地域の市民活動や国際協力活動の活性化を促進して、地域拠点やコミュニティの形成に寄与します。

市民の自覚と責任に基づくボランタリー精神に基盤を置き参加型運営を心がけ、短期的には収益性や多くの支援が望めなくても社会的に必要とされる事業には積極的に取り組み、長期的には成長的収益が見込める事業にしていきます。先駆的な活動へのチャレンジによって市民が創り上げる新たな公共性を開発し共生型の21世紀の市民社会をめざします。

本年度は、団体の特定非営利活動法人化と、今後の事業体制の計画を具体化しました。以下、事業の3本柱と法人化についてお示いたします。

1、 マイクロエンパワメント事業(農業技術支援)

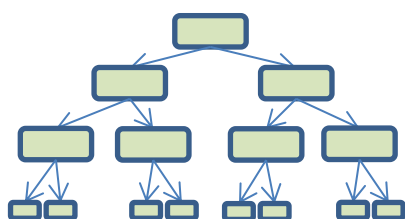
1963年のケニア独立以来、農業はケニア経済の頼みの綱と呼ばれています。しかしながら、高い人口増加率、農業に適した土地の縮小、非伝統的作物の有望な収量を増やすための業界戦略の欠如等の課題により、農業から生じる利益は阻害されています。これは、プランテーションによるトウモロコシ、サトウキビ、お茶などの単一栽培で、小作農からの買い取り価格が極端に安いことに起因します。当団体のケニア人スタッフ2名の出身地のカカメガ郡はケニア47郡の中で2番目に人口が多く、面積では郡の中で最小であり、貧困と失業が改善されていない地区です。また、カカメガの森では、かつてアフリカ最高の美林といわれていましたが、伐採により1970年以降の30年間で20分の1の面積となっています。ケニア全土の森林面積は1.6%程という統計もあり、極端に少ないです。

農業技術支援事業では、ビニールハウスによる収益性の高い農業を、低所得農民へデモンストレーション・研修することで教育し、ビニールハウス貸与することで、収益性の高い農業を実践します。ハウス設置の費用は、収益から回収し、その資金でさらに別のハウスを増やすという方法で、当団体の提唱する

マイクロエンパワメント事業を展開します。また、得られた収益で各農地の 10%分の面積に植林し、環境意識も研修中に教育していく。

マイクロエンパワメント事業は、研修を受けた低所得農民がハウスの貸与を受け、ハウス栽培による収益により 2 年でハウス設置費用を返し、その資金でまた別のハウスを増やしていくという、まったく新しい貧困撲滅手法です。研修を受けて十分に収益を上げられるようになった農民は、新しいハウスとともに研修で身に付けた技術を別の農民に伝えます。ハウスと技術はネズミ算式に増えていくのと同時に、研修によって農業技術以外の森林環境問題や農業組合理論など、実生活に必要なことを教育していきます。具体的には、月収が約 5000～8000 円だったのが、短期間で月収約 15000 円～30000 円に向上することで生活の質が向上し、森林が理想とされる国土の 10%のレベルに近づきます。人から人へ次々と富が広がっていくマイクロエンパワメント事業は、マイクロファイナンスと同じように現世界の不均衡を解消するモデル事業となります。当団体の掲げるスローガン、“One World One Nation”に近づきます。

当期では、ケニアのカカメガにグリーンハウスを 1 台設置することができました。現地の NGO の United Mission For the Needy (UMN) をカウンターパートとして、JAT 主導の下、協働で事業を運営していきます。来期に向けて、種まきと研修生の受け入れ準備などを行っています。デモンストレーションが成功した後、ハウスを増やすための資金管理が必要で、今後の課題です。



マイクロエンパワメント事業イメージ

2、 国際理解教育事業

グローバル社会で活躍するために必要となる異文化理解力をつける為、小中学生向けに外国人講師を派遣する事業を行っています。国際的な活動をする上で欠かせない外国語会話力の大切さを教える為、英語が母国語ではないがビジネスの世界ではすべてネイティブレベルの英語を使って活躍している講師を派遣します。小中学校の英語の授業で文化などを教えることで、生徒の外国語に対する学習意欲を向上させるとともに、異文化の理解力を高めます。その結果、大人になった時に国際社会でリーダーとなる人材が増えていきます。

今期は、刈谷南中学の2年生の英語の授業に、ケニア人をはじめとした外国人講師4名を派遣し、文化などを英語で伝えました。授業後も生徒と講師が手紙でやり取りするなど、実り多い異文化交流となりました。学校の先生や生徒たちからも大変好評で、今後も継続して行っていきます。他の学校へも働きかけ、来期はよりたくさんの中学校へ外国人講師を派遣することを予定しています。

2013年度前期では、名古屋市市長室国際交流課より助成が決定し、4校の中学校へ派遣する予定です。留学生のインターンシップとしての役割も、名古屋大学の留学生センターと連携し、広く学内で募集を始めました。

3、 NPO 法人化

法人化へ向けての打ち合わせを繰り返し、名古屋市へ特定非営利活動法人として申請し、受理されました。10月5日に登記が完了し、特定非営利活動法人ジャパンアフリカトラストとなりました。英語表記を Japan Africa Trust Inc. としました。

4、 イベント事業

一年を通じての年間イベントとしては、アマアフリカ、ケニアの環境文化の講座、チャリティーコンサート、愛フェス、ワールドコロボフェスタ、ケニア料理教室、刈谷市国際フェスタ、帰国報告会、忘年会、だいきっずなどに参加・開催した。毎回多くの会員やスタッフの方にご参加いただきながら行うことができました。今後はさらに会員の方が役割を分担したりし、楽しく参加する中でやりがいも持てる様に進めて行きます。



1/22 新年会



2/5 ケニア環境文化セミナー



5/12 「開発会議（リオ+ 20）」ビデオ



6/2,3 アマアフリカ



8/11 チャリティーコンサート 9/23 交流会 (ジャレッドお別れ会)



9/29 愛フェス



10/9 国際理解教育(刈谷南中)



10/27, 28 ワールドコラボフェスタ



11/17 ケニア料理教室



12/9 刈谷市国際交流フェスタ



12/23 帰国報告会



2/10 お豆腐作り



3/22 あま市農協トマト研修



だいずきつづ 3, 7, 10, 12, 2月



11/5 グリーンハウス建設

11/10 国際理解教育講座 カカメガ

11/8 現地コミュニティーCBO との連携

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	収入額 支出額
知識の普及啓発および情報提供事業	インターネットによる情報提供	2012年4月-2013年3月	Webサイト上	1	ネット閲覧者	収入 0円 支出 63600円
調査研究、政策提言事業	事業計画策定・調査	2012年4月-2013年3月	ケニア	1		収入 0円 支出 195000円
チャリティーイベント事業	AMA アフリカ、ケニア料理教室、ダイズキッズ、ワールドコラボフェスタ、刈谷市国際交流フェスタなど	2012年4月-2013年3月	ウイルあいち他	20	一般市民	収入 100562円 支出 866500円
農業技術支援事業	事業計画策定	2012年4月-2013年3月	ケニアカカメガ	8	ケニアカカメガ農民	収入 0円 支出 792138円
国際理解教育事業	刈谷南中	2012年4月-2013年3月	刈谷南中	7	刈谷南中学	収入 35000円 支出 170000円

(2) その他の事業に係る事業

本年度は実施せず。